

きょうどのざいさん「戸ノロゼキ」

戸ノロゼキは、340年もの間、猪苗代湖の水を台地の上に送りつづけてきました。

その水は、^{のうぎょう}農業用水としてばかりでなく、水道用水、^{こうぎょう}工業用水、発電用水として、さらには^{ぼうか}防火用水、おほりの水としてなど、さまざまに使われてきました。今では、水道用水、発電用水などは、べつになっていますが、それでも、戸ノロゼキがわたしたちの市の生活に大きく役立っていることは、まちがいありません。

飯盛山の洞門わきには、戸ノロゼキにかんしゃして、土地の人々が^{せき}石ひをたてています。

戸ノロゼキのじむしょのおじさんの話



会津若松市の人々は、猪苗代湖という大きな水がめから、戸ノロゼキで水を引いているおかげで、^た他の地方のように水不足になることは、ほとんどありません。

戸ノロゼキがあったおかげで、浄水場や発電所ができ、工場や家がたつようになりました。

わたしたちは、きょうどの先ばいたちがのこしてくれた「戸ノロゼキ」という、すばらしいざいさんにかんしゃし、これからも守り育てていかなければならないと考えます。

たきざわじょうれいじょう
滝沢浄水場



お城のおほりに入る戸ノロゼキの水



戸ノロゼキ石ひ



(1921年9月にたてられる)